



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



「2023年度イノベーション女性活躍推進プログラム」

報告書

本プログラムの特徴

- 学生と複数企業の社会人による協働
- ワークショップ、ディスカッションを通し、多様な視点と発想を取り入れる
- 変化の時代に対応したリーダーとしての姿を探求
- 新しい価値創造（イノベーション）につなげることでできるリーダーの育成

イノベーション女性活躍推進プログラム

2016年度に、大阪大学がダイキン工業株式会社及び国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所を共同実施機関として採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」において、本学の産学共創教育事業の一環として2019年度から実施。

今年度はその事業を継承した「DE&Iコンソーシアム・ハンダイ」の参画機関であるダイキン工業株式会社様、三洋化成工業株式会社様、シスメックス株式会社様のご支援のもと実施した。

【目的】

持続可能な共生社会の実現に向けて、女性活躍推進は、SDGs「目標5」にあるジェンダー平等の観点はもとより、多様な視点や発想を取り入れ、研究活動を活性化し、組織としての創造力を発揮する上でも重要である。

本プログラムでは、複数企業の女性と大阪大学の女子学生が集い、それぞれの分野において活躍中の講師による講義、ワークショップ、ディスカッション等を通して、変化の時代に対応した新しい価値創造（イノベーション）につなげることのできるリーダーとしての姿を探求してくものである。

2023年度 講師

原 圭史郎 教授

- ▶ 大阪大学 大学院工学研究科
- ▶ フューチャー・デザイン



根岸 和政 講師

- ▶ 大阪大学 大学院工学研究科
- ▶ プロジェクトとレジリエンスについて



塚原 月子 先生

- ▶ カレイディスト代表取締役社長
- ▶ リーダーシップ講義・演習



望月 正人 教授

(コーディネーター)

- ▶ 大阪大学 大学院工学研究科

日高 乃里子 教授

(コーディネーター)

- ▶ 大阪大学 D&Iセンター

2023年度プログラム

【プログラムの趣旨】

- ・ 女性リーダーの育成、すそ野拡大を目指す。
- ・ 様々なライフステージにある女性が、多様な個性と能力を最大限に発揮しながら、将来にわたるリーダーシップを築くことを実現することを目的する。

【背景と対応するプログラム】

- ・ 個々人の多様性を組織やチーム、社会の強みに変えるリーダーが不可欠
⇒塚原講師（インクルーシブ・リーダー）
- ・ 地球規模の課題解決には現状の延長ではなくイノベーションが必要
⇒原講師（フューチャー・デザイン）
- ・ イノベーションを促し、組織の目標達成のためには個人がレジリエンスを身に着けることが重要
⇒根岸講師（プロジェクトとレジリエンス）

【昨年度からの変更点】

- ・ 4日間開催→3日間の実施へ変更し、全日参加しやすいように配慮
- ・ 受講者アンケートで好評だった講義・講師3名、昨年度のプログラムを凝縮した形で開催

講義・グループワークのまなび・まとめ①

自己のケアと継続的な成長

- 自分の置かれている環境や立場（e.g., 女性として）を理解する
- 自分の強み（コアバリュー）・弱みを、知る・共有する・（メンターに）相談する
- レジリエンス（強靭さ、しなやかさ、危機からの成長）の獲得
- 考え方（e.g., 認知バイアス）の自己認識と修正
- 知識・教養の獲得・アップデート（e.g., 地球規模の課題）
- 良い競争ができる環境に身を置く（仲間で切磋琢磨・知の対立を通じた成長）
- 深い学び・継続的な学び

スケジュール

	10月12日(木)		10月19日(木)		10月26日(木)
9:30	開講式				
1限 9:50 11:20	<u>フューチャー・デザイン 演習Ⅰ</u> 講師:大阪大学 原 圭史郎教授	1限 9:30 11:00	<u>プロジェクトとレジリ エンスについて</u> 講師:大阪大学 根岸 和政講師	1限 9:30 11:00	<u>フューチャー・デザイン演 習Ⅲ</u> 講師:大阪大学 原 圭史郎教授
2限 11:30 13:00	<u>インクルーシブ・リー ダーシップ (講義)</u> 講師:カレイディスト 塚原 月子代表	2限 11:10 12:40	<u>プロジェクトとレジリ エンスについて</u> 講師:大阪大学 根岸 和政講師	2限 11:10 12:40	<u>インクルーシブ・リーダ ーシップ (グループ演習)</u> 講師:カレイディスト 塚原 月子代表
3限 14:00 15:30	<u>インクルーシブ・リー ダーシップ (個人演習)</u> 講師:カレイディスト 塚原 月子代表	3限 13:40 15:10	<u>フューチャー・デザイ ン講義</u> 講師:大阪大学 原 圭史郎教授	3限 13:40 15:10	<u>インクルーシブ・リーダ ーシップ (振り返りとアク シヨンプランニング)</u> 講師:カレイディスト 塚原 月子代表
4限 15:40 16:50	交流会	4限 15:20 16:50	<u>フューチャー・デザイ ン演習Ⅱ</u> 講師:大阪大学 原 圭史郎教授	4限 15:20 16:50	<u>フューチャー・デザイン演 習発表</u> 講師:大阪大学 原 圭史郎教授
				 17:15	閉講式

講義・グループワークでのまなび・まとめ②

対話やコミュニケーション、ビジョン共有を通じた価値創造・イノベーション

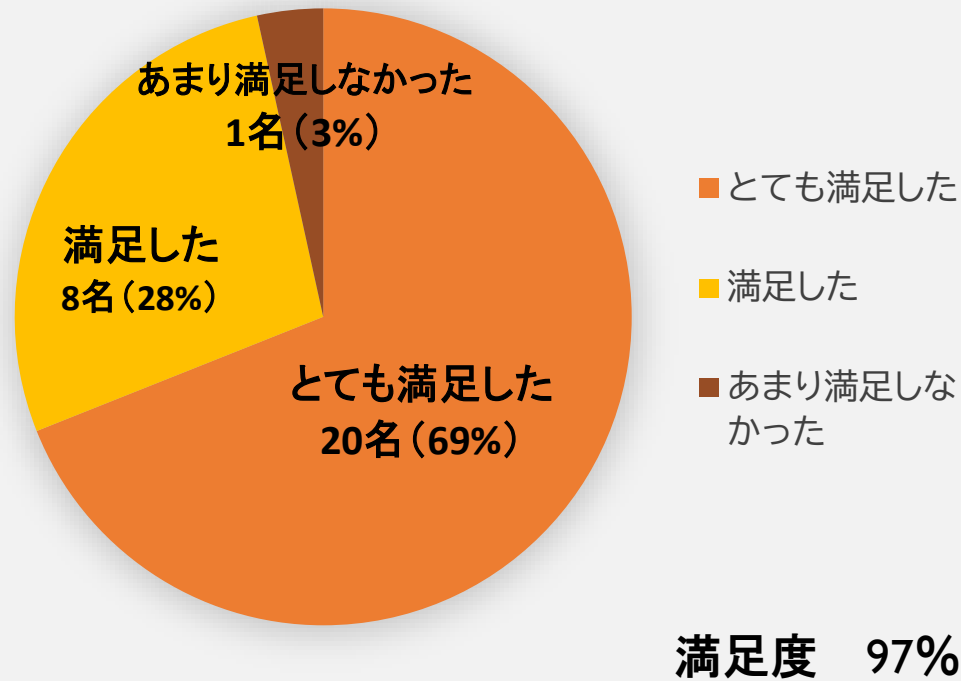
- ・ 心理的安全を感じられる環境づくり (e. g., 感情の対立が少ない職場)
- ・ 他者の成長・他者へのインフルエンス、チームメンバーの強みを生かす
- ・ デザイン思考・アート思考の獲得、知識創造
- ・ 将来からの視点・俯瞰的視点の獲得
- ・ 良い(チーム)パフォーマンスから第3者(社会)へ影響を与える

勇気を出すための心がけ

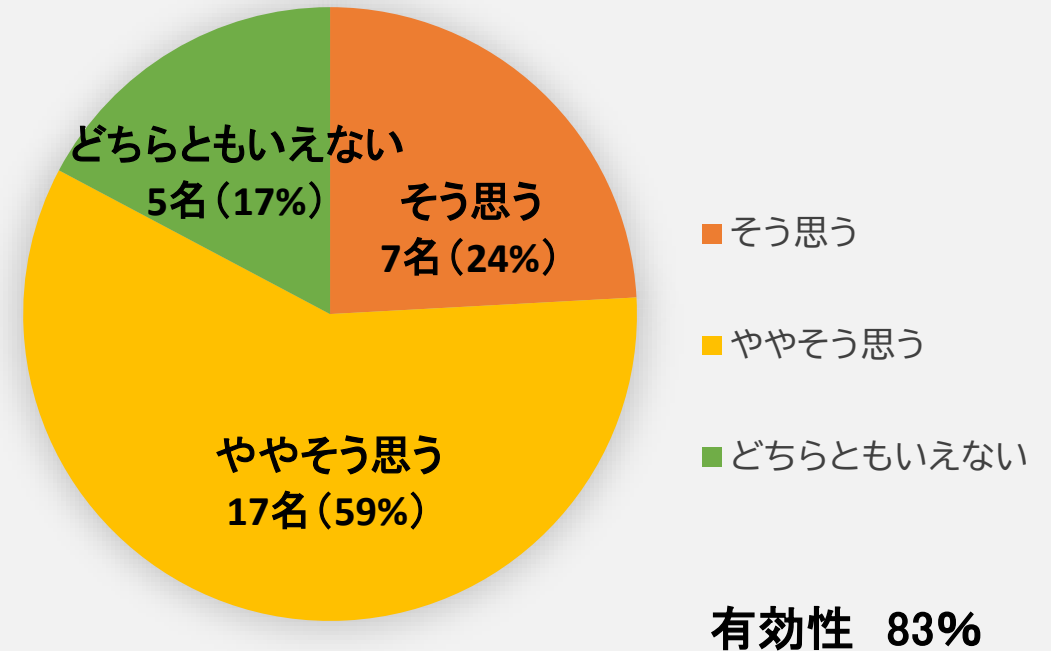
- ・ 他者に助けをもらうということはその人の成長につながる
- ・ 小さな発言や行動でも大きな変化を生む可能性がある
- ・ 歴史に名を残すようなリーダーは数少ないかもしれないが、一人ではリーダーにはなれない
- ・ フォロワーとなる勇気があれば、大きなうねりを生むことができるかもしれない

2023年度 プログラム実施結果（受講者のフィードバック）

プログラム全体への満足度をお答えください
（回答者29名）



プログラムを受講して、これから会社でリーダーシップを発揮できると思いますか？（回答者29名）



参加者のプログラムへの満足度は高い

参加者からのフィードバック①（記述回答より）

社会人と学生がともに学ぶことに対して

- ・ 学生という言葉から無意識のうちに学部生をイメージしていました。一日目に会場に足を踏み入れて参加者の皆さんにお会いした瞬間に自分のアンコンシャスバイアスに気づかされました。学部生、マスター、ドクター、社会人経験を経て院で学ばれている方など、想像以上に多様な学生の方々の目線は一瞬一瞬が刺激的でした。
- ・ 専門分野やバックグラウンドが様々な方々とグループワークをすることで、新しい目線や意見に触れることが出来ました。社会人だけの研修では、会社生活の中で経験した組織のしがらみのようなものを無意識的に考慮して意見が現実的なものに寄ってしまいがちですが、学生の方々の意見を聞くことで素直に良い案は何かに立ち戻れる場面があったように感じます。
- ・ 社会人の方々は物事を考える際に、より現実的かつ全面的な視野を持っていると気づきました。
- ・ 社会人の方は企業の立場から問題を考える場合が多い。
- ・ 社会人の現実的なアイデアと、学生の自由な発想がバランスよく議論される点が面白いと感じました。

参加者からのフィードバック②（記述回答より）

プログラムに対して

- 大学じゃないと学ばなかっただろうと感じた内容はフューチャーデザインの講義です。将来像を検討するときにこういう考え方の方法があるという内容を学術的に教えてもらって実践するというのはこの機会に知れてよかったです。社会人になった今だからこそ価値がありました。
- インクルーシブ・リーダーシップについて、目指したいリーダー像に近く、出来るところから、実践したいと思います。
- どのような立場であっても今の自分なりのリーダーシップを持つことができると思えるようになりました。
- はじめてレジリエンスについての講義に参加しましたが、この講義でのお話は職場の人たちにも聞いてほしいとても有意義な時間でした。
- すべてのプログラムが大変良く、アンケートでの順位付けが困難でした。
- 初日からグループ内のメンバーだけでなく、交流会も行われたことで他の参加者と打ち解けられたので、ワークがしやすい環境だった。
- 交流会も17時以降で参加できる人だけでやるのではなく、プログラム内に組み込んでいただけたのが良かった。

参加者からのフィードバック（記述回答より改善点・要望など）

プログラムに対して

- ・「イノベーション女性活躍推進プログラム」という名前に惹かれて受講しましたが、実際の授業の中身とのつながりや全授業を通して一貫した目標像などが少しわかりづらいと思いました。
- ・1チームの発表内容が濃く長かったため、全チームの全発表を聞くのは結構集中力が切れてしんどかった。プロセスが大事だと思っているので、がつつりとした発表になるのであれば何個かのチームだけでも私はいいのかなと思っていた。
- ・発表時間の時間管理があると嬉しかった。

教室・空間・時間割など学習環境に関して

- ・会社PCが常に充電できる環境にできていた良かった。
- ・各机の近くに電源タップがあれば、尚便利かと思いました。
- ・少し机が狭かったように感じた。
- ・お昼休み、休憩時間が少し短いかなと思いました。
- ・交流会の時間と回数を増やしてほしい。
- ・午後一に講義があるとどうしても睡魔に襲われてしまうため、なんとか演習交じりのものが良いです。